

# 仕事選びについて考える。



キャリアデベロップメント  
アドバイザー、  
心理相談員、社会保険労務士

山本 真一

■生年月日 昭和三十七年七月二十九日生(四十歳)  
■資格 厚生労働省指定キャリア・コンサルティング能力試験合格  
(キャリアデベロップメントアドバイザー)  
心理相談員、社会保険労務士  
■勤務先 山本真一社会保険労務士事務所  
〒八七〇〇二四四 大分市須賀二丁目十五番十二号  
TEL:〇九七五二二一三二二六  
FAX:〇九七五二二一四五四五  
■経歴 大手業務請負(人材派遣)会社で安全衛生・法務責任者として、  
労務管理並びに採用(新卒・中途)業務に携わる。  
その後、社会保険労務士として平成十四年独立開業。  
以後厚生労働省指定キャリア・コンサルティング能力  
試験合格(キャリアデベロップメントアドバイザー)を取得し  
再就職支援セミナーの講師及び  
大分市「就労意識ウエイクアップ事業」の  
キャリア・コンサルティングとしてキャリア形成・再就職  
支援業務に従事しています。

## 「20代の可能性」～任運自在の哲学～

新しい年度が始まりました。新しい職場や学校で新たな一歩を踏み出した方も多いのではないのでしょうか？

4～5月は新規学卒者のための就職セミナーが各地で多数開かれていますので、今年度卒業予定の学卒者の方は、

就職活動の真最中ではないでしょうか？

今回は、現在就職活動中の方や、就職して間もない方へメッセージです。

さて、初めて、社会にでるときは、誰にとっても不安がつきものです。また若いからこそ自己実現を望むのもいたしかたありません。それ故、好きな仕事ややりたい仕事を中心に職業選択を行いがちになります。

しかし、好きな仕事ややりたい仕事という理由で職業選択を行うとどうしても社会的に知名度の高い仕事や専門職にかたよりがちになります。それ自体は間違いではありませんが、社会人経験が少なく、職業観の涵養ができていない若年者の場合は、就職活動がスムーズにできないことがままあります。その傾向としては、以下の様なものがあります。

### 1. 特定の職種や業種にこだわり過ぎる

就職活動をするにあたり、特定の職種や業種にこだわりを持って臨むことは、素晴らしいことです。しかし、私の経験からいうと、特定の業種や職種にこだわりはあるものの、その職種や業種に関する理解が不足している若年者が多くみられます。

つまり、その職種に興味があるという程度の関心だけで職種や業種を選択している場合や、企業のイメージだけで、職業選択している場合が多くあるということです。

### 2. 「やりたい」「好きな」仕事とのギャップに苦しむ

専門職や知名度の高い仕事というのは、一定の経験や資格が求められます。

そして、多くの場合の下積みや修業といったような経験を積むことが、不可欠です。メディア等で華やかに活躍している人が多くいます。もちろん、その方々を成功例として目標とすることは素晴らしいことです。しかし、初めから同じように活躍できる人は皆無です。これから社会にでる人または、社会にでたばかりの人については、その方たちが、それまでの努力や下積み時代があったことを忘れてはなりません。

そこで、上記のような傾向があり、就職活動がうまくいかないと感じている若い方々が職業選択をする際には、『任運自在の考え方』を取り入れてみるのも、一つの選択肢ではないかと考えています。

任運自在とは、禅の言葉で、一言でいうと執着心やこだわりを捨て去って、運に任せながら、与えられた環境の中で精一杯生きていくというものです。

現在第一線で活躍されている人も偶然の結果に自分の「一生の仕事」といえるものに多くあっています。偶然の中には、初めは興味がなかったが上司に勧められて、また、たまたまその仕事に取り掛かるようになったり、あるいは人のご縁によりその仕事に就くことになったことなどがあります。

職業が持つ本質的な意義は、社会に役立ち、また社内外の人に必要とされることだと私は思います。自己実現を果たすことは大変素晴らしいことではありますが、自己実現にこだわり過ぎることによって窮屈な生き方になるよりは、少しいい加減でもいいので、社会に必要とされる仕事であれば、与えられた環境そして仕事を選択していくことも重要ではないかと思っています。